

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

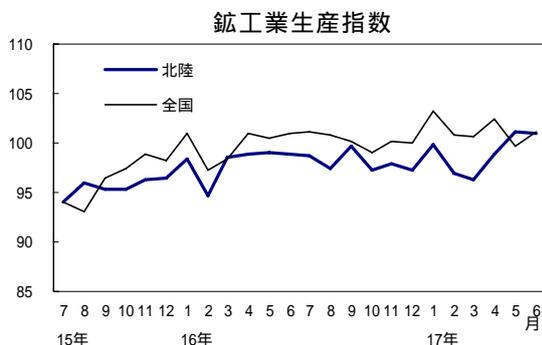
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
鉱工業生産	緩やかに減少	緩やかに増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、金属工作機械が自動車向けを中心に増加し、土木建設機械が高水準で推移したことなどから増加している。電子部品・デバイスは、デジタル家電向けを中心に、半導体素子・集積回路が高水準で推移し、電子部品も増加したことから、全体でも増加している。化学は、プラスチックや界面活性剤が弱含んで推移したものの、全体では増加している。繊維は、衣料品は弱含んで推移したものの、非衣料品が自動車内装材や電磁波遮断材を中心に増加したことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。金属製品は、住宅用に新商品発売に向けた在庫積み増しの動きがみられたことなどから増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年6月の北陸は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

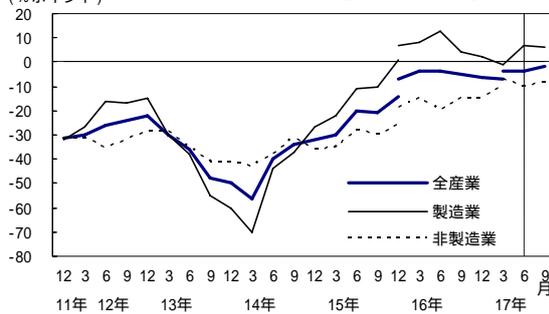
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	14.8	0.4	2.6	-	-
電子部品・デバイス	13.8	7.4	3.5	-	-
化学	12.7	1.7	7.7	-	-
繊維	12.4	2.8	0.0	-	-
金属製品	10.6	6.9	1.9	-	-
鉱工業	100.0	0.3	2.7	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。  
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

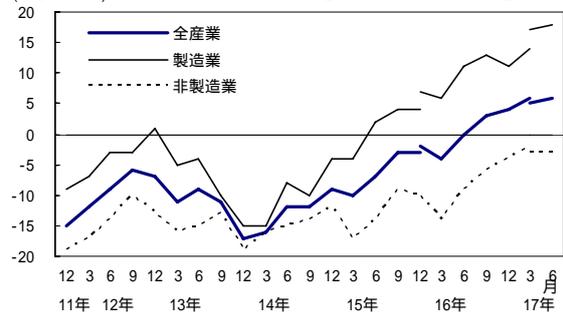
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



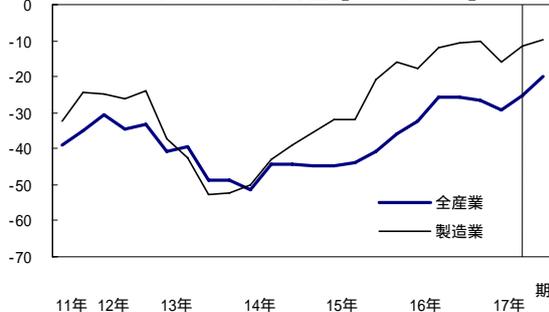
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「工作機械や医薬品等の製造業では、相変わらず順調な受注状況が続き、今後の設備投資にも積極的な企業が増えている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

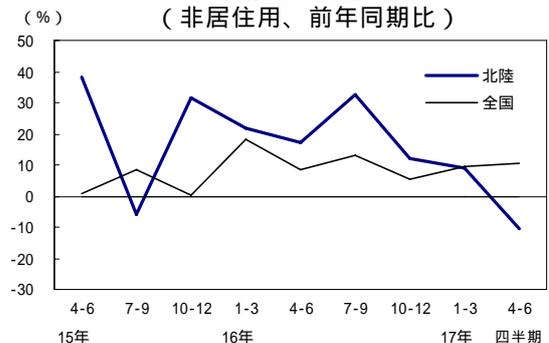
(3) 17年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	17.5 ( 3.2)	0.6 (14.7)
製造業	35.6 ( 4.7)	3.6 (14.0)
非製造業	5.7 ( 0.4)	5.2 (15.9)

(備考)( )は前回(3月、拡充した調査対象先を含む再集計)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、季節衣料やアクセサリなど身の回り品に動きがみられたものの、衣料品全体では低調だったことから、全体では前年を下回った。5月は、催事効果から飲食料品が前年を上回ったものの、主力の衣料品が不振だったことから、全体では前年を下回った。

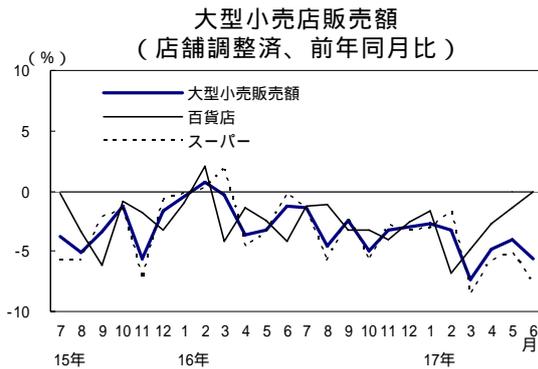
6月は、梅雨入りが遅れ、夏らしい気候が続いたことから、飲食料品が前年を上回るとともに夏物衣料品に動きがみられたものの、全体では前年とおおむね横ばいとなった。

スーパーは、期間を通じて飲食料品、衣料品ともに前年を下回ったことから、全体としては15か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

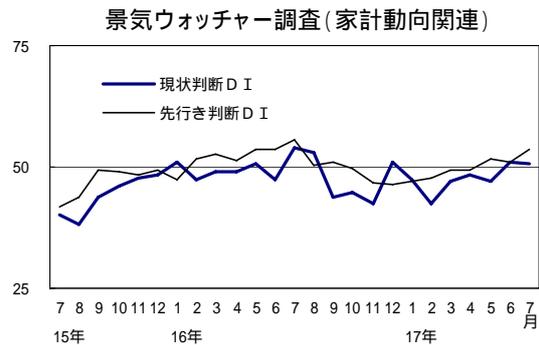
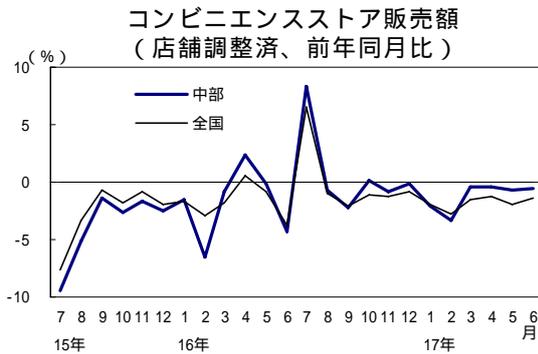
「単価が引き続き前年比10%程度の伸長をみせており、商品の上質志向が消費者の中で広がりがつつある(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)



	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	2.8	3.7	4.3	4.8
百貨店	1.8	3.2	4.3	1.4
スーパー	3.3	3.9	4.3	6.2
コンビニ	1.7	0.3	1.9	0.5
景気ウォッチャー	50.2	46.1	45.6	48.9

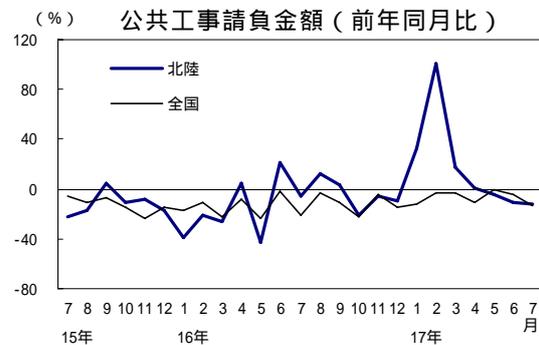
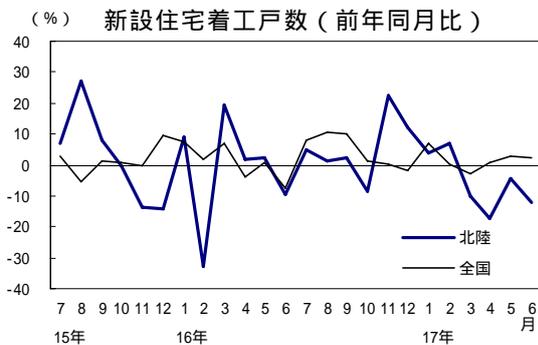
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。17年4-6月期は速報値。  
コンビニは店舗調整済。中部地区。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

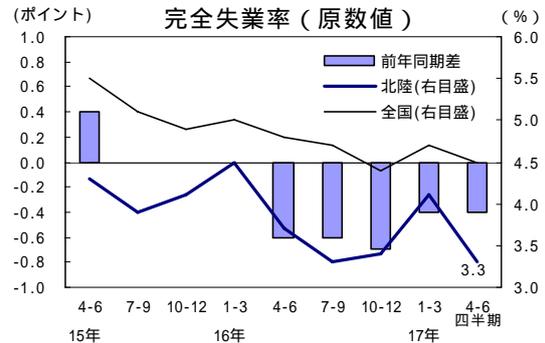
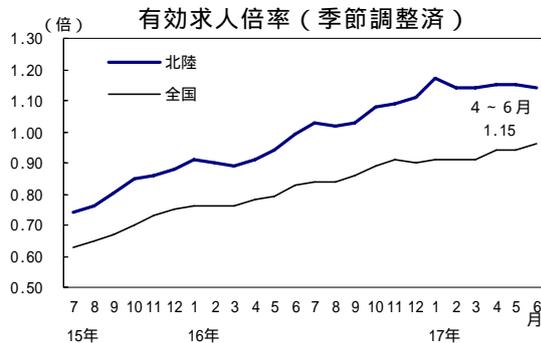


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

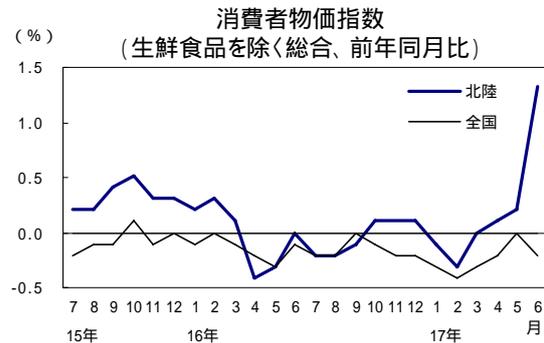
「必ずしも正社員だけではないが、求人と求職者のマッチング率が向上している（職業安定所）」などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「新規求人数は前年比7.6%増加したものの、一般機械製造は同17.4%、電気機械製造は同53.3%減少している（職業安定所）」などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	75	66	71	52	25
（前年比）	33.6	21.4	29.7	44.7	13.8
負債総額	428	319	385	126	60
（前年比）	8.7	8.4	28.6	42.2	83.1



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・客単価は特に伸びず、客の買物に対する慎重な様子にも変化がみられない。しかし、来客数は少しずつ伸びており、“買物意欲”を感じることができる（百貨店）

<先行き>

・ユーザーの合繊メーカーが9月末の在庫を気にしており、先行きの受注が懸念される（繊維工業）

景気ウォッチャー調査（合計）

